

「月に囚われた男」

★★★

2010（平成22）年3月26日鑑賞<ソニー・ピクチャーズ試写室>

監督・脚本：ダンカン・ジョーンズ

サム・ベル(月に派遣された宇宙飛行士)／サム・ロックウェル

ガーティ(人工知能を搭載したロボット)の声／ケヴィン・スペイシー

テス・ベル(サムの妻)／ドミニク・マケリゴット

イヴ・ベル(サムの娘)／カヤ・スコデラーリオ

トンプソン／ベネディクト・ウォン

オーバー・マイヤーズ／マット・ベリー

技術者／マルコム・スチュワート

2009年・イギリス映画・97分

配給／ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント

<低予算だが、発想の大きさは『アバター』と同じ！>

本作は製作費500万ドル(約4億5000万円)、撮影期間33日という低予算映画だが、その発想は地球の燃料危機解決の重要な鍵となる鉱石“アンオブタニウム”獲得のために人類がアルファ・ケンタウリ系の惑星ポリフェマスの衛星パンドラを侵略するという『アバター』(09年)の発想と同じ。つまり、地球に必要な不可欠なエネルギー源ヘリウム3を月から採取するため、月を征服するというものだ。

本作が西暦何年の設定かはわからないが、西暦某年の地球のエネルギーは石油でも電気でも原子力でもなく、クリーンな燃料ヘリウム3らしい。そしてラッキーなことに、地球に最も身近な衛星である月の土壌には大量のヘリウム3が堆積しているらしい。世界最大の燃料生産会社ルナ産業と①派遣先：月の裏側、②契約期間：3年、③労働人数：1人という契約で月に派遣された主人公サム・ベル(サム・ロックウェル)は、人工知能を持ったロボット、ガーティ(声：ケヴィン・スペイシー)をパートナーとして、たった1人で太陽エネルギーを含んだ石を掘削し、ヘリウム3をポッドで地球に送り続けていた。そんな本作には『アバター』のようなドラマティックな展開も、大スペクタクル戦争シーンもないが、本作の発想の大きさは『アバター』と同じ。

<一人芝居で映画をつくるとは・・・>

そんな設定の映画だから、本作の登場人物は基本的にサム一人。妻テス(ドミニク・マケリゴット)と今は3歳になった一人娘イヴ(カヤ・スコデラーリオ)が地球との交信シーンや幻覚シーン(?)で登場するが、パートナーのガーティは声だけの出演(ケヴィン・スペイシー)だから、基本的にサムだけの一人芝居。映画冒頭、サムの仕事内容が一通り紹介された後、サムの幻覚・幻聴を軸とする物語が進行していく。

「100里の道も99里をもって半ばとせよ」と言われているが、今やサムの契約期間は残り2週間となったから、交代要員の宇宙飛行士の到着はもうすぐ。ところが、そんな今頃になってなぜかサムは頭痛が続き、集中力が低下しているうえ、女の幻覚を見たり、拳げ句の果てはもう1人のサムを発見したり。こりゃ何かがおかしい。そんなストーリーの組み立てだが、一人芝居で映画をつくるとは・・・。

<人間は、どこまで孤独に耐えられる？>

ギニア沖で遭難したロビンソン・クルーソーは無人島で18年間1人で生活したらしいが、人間はどこまで孤独に耐える力を持っているの？そういう視点からは、ルナ産業とサムとの3年間という契約期間はギリギリ合理的な線？映画を観ていると、病気になった時やケガをした時もガーティがちゃんと治療してくれるから1人でも安心だが、一番困るのは話し相手がいないこと。もっとも、ロビンソン・クルーソーはフライデーを従僕にするまでの18年間はホントの一人ぼっちだったが、サムにはガーティがいるから自由に会話を楽しむことができる。でも、やはり話し相手がロボットでは・・・。

また、人間には食欲の他性欲があるから、男が1人で3年間も女っ気なしは大変だ。もっとも、サムが生きている西暦某年ともなれば、本作には描かれていないが、そういう方面の擬似的な性欲処理の方式が確立されているはず。そうであれば、本作の冒頭のような女の幻覚を見ることはないと思うのだが、サムがそんな幻覚を見たのは、やはり性的な欲求不満が原因？、また2年と11カ月と2週間も孤独に耐えて任務を忠実に遂行してきたサムが、なぜ最終の2週間に至って頭痛が発生し、幻覚・幻聴に襲われるようになったの？そこらあたりがよくわからないが、人間はどこまで孤独に耐えられる動物なのかは、きちんと科学的に解明しなければならぬテーマだ。

<日本では交通事故は減ったが、月では？>

道路と車の改良そして交通事故防止キャンペーンの進展によって、交通事故とそれによる死傷者数は日本では年々減少しているが、さて月では？サムはもはやベテランの宇宙飛行士兼技術者だから、ルナローバー(月面車)に乗って月面を採掘しヘリウム3を抽出・精製してロケット推進式のポッドに入れて地球に送る仕事は、今や簡単なこと。1日1回その仕事をこなした後はすべて自由時間だから仕事的にはチョロイものと思っていたが、ルナローバーに乗ってある幻覚・幻聴に浸っている時に交通事故を起こしてしまったから大変。気がついたらサムは基地内の診療所に安置されていた。これはガーティが救出してくれたためだが、以降サムの頭の中は混乱し、ダンカン・ジョーンズ監督が目指すSFストーリーが展開されていく。しかし、月面上のあんな広いところで、なぜサムは交通事故を？

<新人監督賞受賞のダンカン・ジョーンズとは？>

日本に日本アカデミー賞があるのと同じように、イギリスにも英国アカデミー(BAFTA)賞がある。そして試写当日配布されたチラシによると、英国アカデミー賞新人監督賞と作品賞にノミネートされていた本作は、現地時間の2010年2月21日見事新人監督賞を受賞したと書かれていた。と言っても、本作の監督ダンカン・ジョーンズは私の全く知らない人物。そこで調べると、ダンカン・ジョーンズの父親は伝説のロック・スター、デヴィッド・ボウイで、母親はローリング・ストーンズの名曲『アンジー』のモデルとなったアンジェラ・バーネットというから、ダンカン・ジョーンズは言わば血統書付きの才能の持ち主だ。もっとも、ダンカン・ジョーンズは自分自身を“オタク”と呼び、黒澤明監督、北野監督作品が大好きで、攻殻機動隊、AKIRA、エヴァンゲリオンなどのSFアニメの大ファンでもあるらしい。

プロ野球の新人賞受賞者によく訪れるのが「2年目のジックス」だが、新人監督賞のダンカン・ジョーンズはそんなジックスに無縁のはず。次回作の『Source Code』を楽しみにしたい。

2010（平成22）年3月29日記